



1階ピロティ空間から見る外観。木が林立するイメージが具現化している。ホルバーは不燃処理したスギ材を、清水建設の東京木工場で加工製作した。

Café SETSUGEKKA

デザインプロポーザル 張昊 財部あゆみ
具現化プロジェクト協力・設計施工 清水建設

「SMOKERS' STYLE COMPETITION 2010」のプロポーザル部門で最優秀賞を受賞した張昊氏、財部あゆみ氏の案(本誌1103、1106)が、去る2012年5月15日、清水建設本社(本誌44-58頁参照)1階のピロティに、「Café SETSUGEKKA」(運営：榮太樓總本舗)として完成した。

張・財部の両氏が提案した「はやしのなかのカフェ」は、昨年の1次審査、東日本大震災から約1カ月後に2次プレゼンテーションを経て、最優秀賞を受賞。両氏の所属であるつくば大学が震災により被災し、十分な準備ができない状況だったが、木を林立させ、

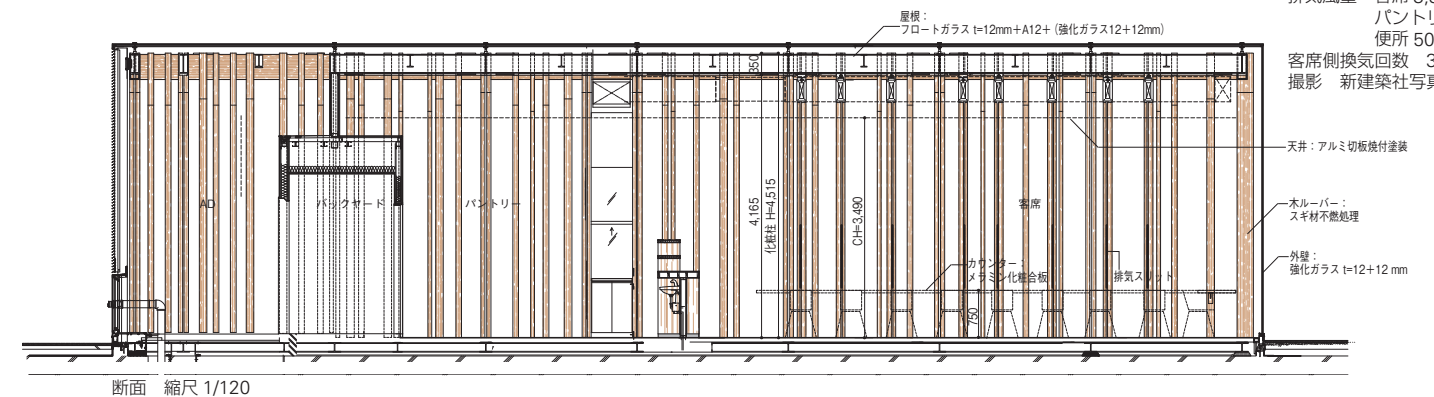
その木を排気設備にするというアイデアが高く評価され、最優秀賞を勝ち取った。実際このアイデアの具現化にあたっては、設備、意匠、工法などの多くの課題をクリアしなければならなかったが、清水建設の設計、技術力のバックアップにより、コンペ最終審査からほぼ1年、ついに実現に至った。清水建設は、実施設計、現場見学、実証実験(つくばの新菱冷熱研究所にて)、東京木工場見学、工事途中の現場見学など、さまざまな過程において張、財部の両氏と意見交換しながら、具現化を進めていった。両氏は「今回のプロジェクトにおいて、私たちはたく

さんのことを学びました。2次審査の際は、大震災の影響もあり、本当にプレゼンテーションができるのが不安でしたが、あきらめなくてよかったと思っています。具現化の過程で、清水建設の東京木工場を見学させていただき、実際に職人の方が手仕事で木のルーバーをつくっているところ見て、とても感動しました」と、この1年間を振り返った。今回、最優秀案の具現化を推進した清水建設新本社設計室室長の見城辰哉氏も、「はじめに彼らの案を見た時、今回、新社屋で掲げていたさまざまな素材感を映し出す空間にまさにマッチしていると思いました。

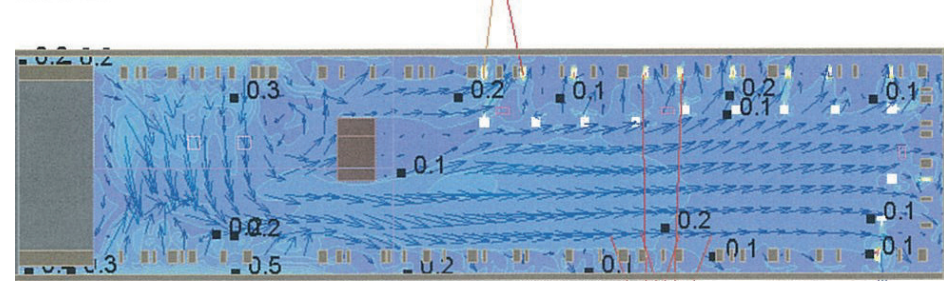
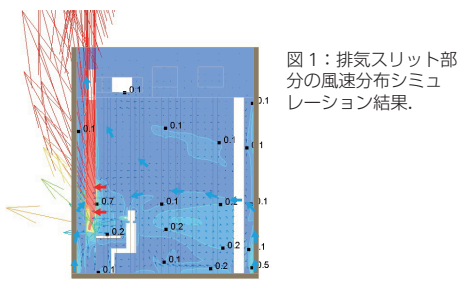
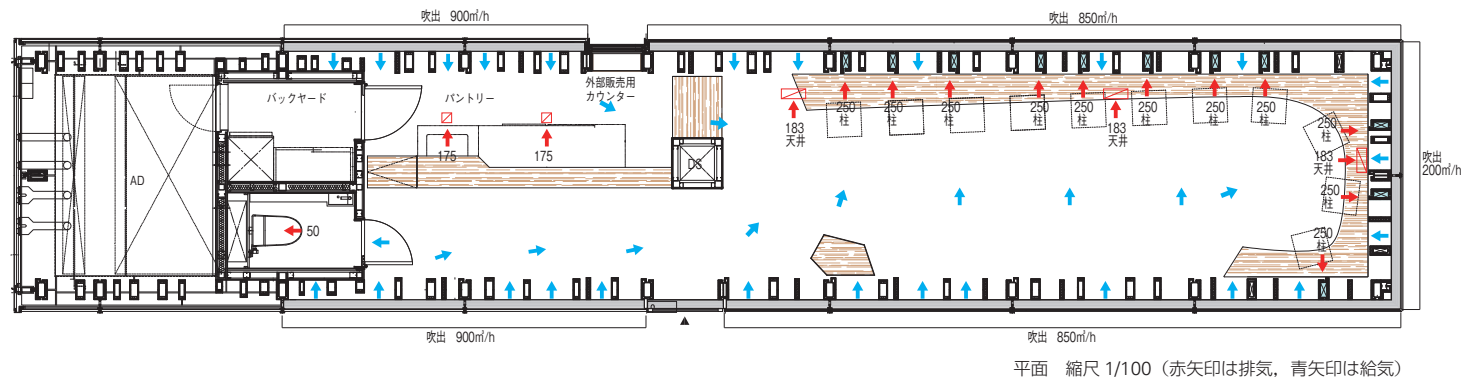
さんのことを学びました。2次審査の際は、大震災の影響もあり、本当にプレゼンテーションができるのが不安でしたが、あきらめなくてよかったと思っています。具現化の過程で、清水建設の東京木工場を見学させていただき、実際に職人の方が手仕事で木のルーバーをつくっているところ見て、とても感動しました」と、この1年間を振り返った。

今回、最優秀案の具現化を推進した清水建設新本社設計室室長の見城辰哉氏も、「はじめに彼らの案を見た時、今回、新社屋で掲げていたさまざまな素材感を映し出す空間にまさにマッチしていると思いました。

建築 DATA
敷地面積 2,728.11m²
建築面積 66.68m²
階数 地上1階
構造 鉄骨造
工期 2012年1月～2012年5月
設備
吹出風量 計 3,700m³/h
排気風量 客席 3,300m³/h
パントリー 350m³/h
便所 50m³/h
客席側換気回数 35回/h
撮影 新建築社写真部



断面 縮尺 1/120



風速 [m/s] 0.0 1.0 2.0



排気スリットディテール。



排気スリットのファン運転/停止時の非喫煙者周囲状況。
左: 排気ファン運転時、煙がそれぞれの排気スリット側に流れ、非喫煙者方向への煙を抑えることができる。
右: 排気ファン停止時、煙が拡散する。
図1・2。左写真2点提供/清水建設

具現化に際しては何をいちばん大事にしたいかを彼らとよく話し合ったうえで始めました。当初の案はすべてのルーバーが自由に移動できるものだったのですが、さまざまな制約を考慮し、最終的には木を固定させて、その中に排気設備を入れ込むことにしました」と話す。

今回の分煙空間の特徴は、木ルーバーに仕込まれた排気スリットだ。

カフェの外周を覆っているスギの木ルーバーは、構造体のものであれば、意匠柱もある。

このうちの11本に排気設備が組み込まれていて、排気設備1本あたりの排気風量は、設計風量(250m³/h)以上を満たし(実験により確認)、天井部にある排気設備と合わせ、空間全体の排気量は3,700m³/h(換気回数35回/h)と、飲食店としては十分な排気量を確保している。さらに、排気柱が煙の発生源近くで集気し、排気するため、喫煙者の隣に非喫煙者がいても、煙が気にならないつくりになっている(上写真参照)。

たばこを吸う人と吸わない人の共存を目指した分煙空間の新たな提案がここに実現した。

SMOKERS' STYLE COMPETITION審査委員長の古谷誠章氏は、「今回の実施作品については、いろいろな側面で常に意味があることだったと思います。



上: 2011年8月に清水建設で行われた打ち合せ。
下: 2012年1月に行われた東京木工場の見学。

コンペが始まって6年目を迎えますが、当初に比べるとアイデアや作品が多様化すると同時に、個々のレベルも上がっていると感じています。今回は、清水建設の組織力のバックアップがあって、見事に張さんと財部さんのコンセプトを具現化した空間ができ上がりました。まさに人を分けずに煙を分ける空間がここに実現しています。是非、多くの方に利用していただけたらと思います。

SMOKERS' STYLE COMPETITIONから生まれる新たな空間の創造を、今後も期待したい。

(文責: 本誌編集部)



カフェ内部。木ルーバーがぐるっと囲む壁側にカウンターが設置され、煙が排気スリットによって吸い込まれる仕様。空間の天井高さは3,490mm、化粧柱の高さは4,515mm。